

全日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会(1968~1977)の研究(4) — 第5・6・7回大会の概要と競技記録 —

A Historical Study of the Noto Peninsula Ekiden for Selected Japanese Universities during 1968- 1977 Part 4 — Documentations and Records of 5th to 7th Race Competitions —

大久保 英 哲 (人間科学部スポーツ学科特任教授)

Hideaki OKUBO (Faculty of Human Sciences, Department of Sport Science, Specially-appointed Professor)

親 谷 均 二 (人間科学部スポーツ学科非常勤講師)

Kinji OYATANI (Faculty of Human Sciences, Department of Sport Science, Part-time Lecture)

北 川 潔 (星稜高校陸上競技部顧問)

Kiyoshi KITAGAWA (Seiryō High School, Track & Field Club Adviser)

櫻 井 貴 志 (人間科学部スポーツ学科准教授)

Takashi SAKURAI (Faculty of Human Sciences, Department of Sport Science, Associate Professor)

佐々木 達 也 (人間科学部スポーツ学科講師)

Tatsuya SASAKI (Faculty of Human Sciences, Department of Sport Science, Lecturer)

西 村 貴 之 (人間科学部スポーツ学科講師)

Takayuki NISHIMURA (Faculty of Human Sciences, Department of Sport Science, Lecturer)

阿 羅 功 也 (人間科学部スポーツ学科助手)

Koya ARA (Faculty of Human Sciences, Department of Sport Science, Assistant)

〈要旨〉

第1回開催(1968)から第10回大会(1977)まで行われた「全日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会」(「能登駅伝」)は、かつて日本大学三大駅伝と言われた大会のひとつであった。筆者らは、この日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会の開催・廃止過程を明らかにすることを目的に、第1回開催(1968)から第4回大会(1971)までの各大会のレース概要とチーム、選手、区間ごとの競技記録等をまとめた。本稿では、第5・6・7回大会のレース概要とチーム、選手、区間ごとの競技記録をまとめ、報告する。

〈キーワード〉

能登駅伝, 駅伝競走, 実施記録

はじめに

本論文は、大久保英哲・親谷均二「日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会の開催・廃止過程—第1回開催(1968)から第10回大会(1977)に至るまで—」(金沢星稜大学人間科学研究第9巻1号)をはじめとする一連の研究⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾に引き続く論考であり、第5~7回大会分のコース、実施記録、選手名、順位、タイム、大会の特色等を明らかにする。

1. 第5回大会 1972(昭和47)年

第5回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会は、昭和47(1972)年11月23日から26日の3日間行われた。

北信越学生陸上競技連盟会長に就任した稲置繁男は、大会プログラムの巻頭に次の挨拶を寄せている。

「第5回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会を迎えることになり、全国の精鋭12チームによって盛大に行われることはまことに喜ばしい限りです。本大会も5回を数え、学生陸上競技界の中でも最大の行事として注目を集め、その成果に著しい発展が見られますことは主催者として御同慶にたえません。

近年、特に国際的に目覚ましい活躍をしているマラソンや、長距離競技の基礎的な体力、精神力の育成にはこの駅伝は絶好の企画であると信じます。この大会を通じ、

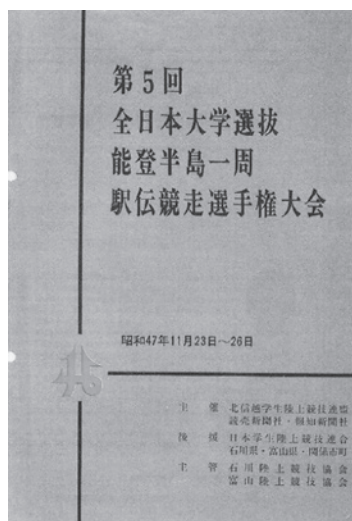


写真1. 第5回大会プログラム表紙

学生陸上競技のレベルの向上、ひいては世界に大きく飛躍することを強く希望します。

駅伝競走は最近交通渋滞のひどい大都市周辺から締め出される傾向にありますが、その点能登半島はかかる禍もなく、景色もよく、空気もよしと環境は満点で、参加される選手諸君が日頃鍛えた実力を十分発揮出来るコースであると思います。選手諸君は最良のチームワークとベストコンディションで健闘し、学生スポーツの真髄を発揮され、正々堂々と競われんことを希望します。尚、本大会開催に当たり、運営その他にご支援、ご協力願った、読売新聞社、報知新聞社、石川県、富山県、関係市町、及び両県の警察当局など関係者の皆様に深く感謝の意を表します。』⁽⁴⁾



写真2. 第5回大会コース図

第5回大会は12チームと過去最多となり、東京農大と京都産業大学が初出場した。それに伴い、レースもトップグループ、注意グループを問わず、白熱したレース展開となった。日本体育大学が最終日逆転して、5連覇の偉業を達成したが、大東文化大学が2日目通算で3分弱リードするという善戦もあって、多くのファンを沸かせた。区間記録が28も出るという記録ラッシュで、特に第1日目の区間記録数17(10区間)は白熱した展開を裏付けるものであった。

優勝した日本体育大学には、今年から新たに設けられた大優勝旗(持ち回り)が連盟会長から贈られた。

またこの5回大会から、各チームの応援部隊がくり出し始めたようである。「能登の地形にも慣れてきたこともあってか、自動車での遠征が増え、近隣のOB諸兄の動員も見られ、決勝点金沢での慰労会にもぎやかであった。この年もまたそれぞれの感慨を残して幕を閉じた。」⁽⁵⁾

表1. 第5回全日本選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会(第1日目)

チーム名(監督)			日本体育大学 (岡野 章)	大東文化大学 (青葉昌幸)	中京大学 (中尾隆行)	東京農業大学 (井口輝男)	大阪体育大学 (豊岡示朗)	駒澤大学 (森本 葵)	大阪商業大学 (下田喜久馬)	京都産業大学 (蔭山靖夫)	東北学連 (菅原耕二)	北信越学連 (親谷均二)	中国・四国学連 (久保田康毅)	北海道学連 (大村良治)
区間														
1	高岡 ～氷見	18.0km	古川 久司 ②56.02	秋枝 実男 ④56.38	山村 勇 ①55.58	小菅 克巳 ⑥56.46	岡本 清 ③56.08	加瀬 治 ⑦57.37	亀谷 宏治 ⑤57.58	井上 正氏 ⑥56.44	高橋 研哉 ①1.02.43	大塚 偉介 ⑨58.42	家原 均 ⑩1.03.53	石川 陽孝 ⑪59.52
2	～黒崎	18.9km	和田 誠一 ③57.16	庄司 博 ④59.06	岡田 耕三 ①56.35	服部 誠 ②56.59	兼島 英樹 ⑤59.29	宮川 寿夫 ⑧1.00.39	小林 寿朗 ⑦1.00.11	南谷 勝夫 ⑥59.66	渡会 省吾 ⑨1.01.46	梶原 正己 ⑫1.08.36	川添 行文 ⑩1.04.43	田中 幸夫 ⑪1.04.44
3	～七尾	15.7km	村上 邦弘 ⑤50.51	兼田 賢一 ①48.51	曾山 利和 ③49.40	近藤 和夫 ④50.23	脇本 元栄 ⑦51.52	大沢 隆司 ⑨54.11	天野 精三 ②49.27	百合野康也 ⑥51.16	加藤 昇 ⑧53.46	山本 太一 ⑫54.57	黒木 潤 ⑩54.41	久保田 実 ⑪54.50
4	～中島	18.1km	石倉 義隆 ②56.45	下村 剛 ①56.32	宇高 正美 ③58.57	矢島 修 ④59.17	橋本 元栄 ⑥1.00.00	田中 秀男 ⑦1.00.38	奥田 豊一 ⑤59.38	中村 健二 ⑫1.05.09	加藤 慎一 ⑨1.02.02	井口 昌一 ⑪1.04.20	山本 勝正 ⑧1.01.54	後藤 和正 ⑩1.03.26
5	～穴水	16.7km	大金 一幸 ①51.20	味沢 善朗 ②52.13	中山 勇生 ③53.11	佐藤 博 ④53.36	藤原 郁生 ⑤54.17	宮崎 慶喜 ⑥54.34	赤松 由章 ⑦55.21	西田 義則 ⑩57.22	井馬 正夫 ⑧55.38	親谷 均二 ⑨56.53	本東地英視 ⑪57.41	水井 裕彦 ⑫58.22
6	～上曾山	11.0km	荒野 吉之 ③34.22	森下 茂樹 ①33.33	浜口 昇 ②34.02	峯岸 良明 ④35.59	藤田 洋介 ⑥36.12	佐藤 次男 ⑦37.34	水川 浩治 ⑧38.17	鈴木 龍次 ⑤36.09	伊藤 春次 ⑨39.18	牧 昭夫 ⑫40.02	木村 孝志 ⑩38.54	佐藤 円治 ⑪38.06
7	～鷺川	11.4km	関口 孝久 ①33.35	安田 亘 ②33.36	山下 健次 ③35.3	藤本 孝明 ④35.13	高藤敬一郎 ⑥36.15	高木 勝義 ⑦36.11	金広 龍操 ⑤35.31	今北 友幸 ⑩36.22	高橋 守 ⑧36.40	菊池 芳次 ⑨39.05	小畑 卓司 ⑫35.54	本谷 建 ⑪38.33
8	～宇出津	9.0km	今野 秀悦 ①26.25	松本 始 ②27.24	福田 輝男 ③27.32	枝 啓司 ④28.33	小柳 繁清 ⑥28.41	高橋 秀春 ⑤28.34	香川 英一 ⑩32.20	真山 美雄 ⑧30.41	布施 幸雄 ⑨30.33	白崎 繁 ⑫30.49	妹尾 武治 ⑩30.49	出塚 守 ⑪30.16
9	～松波	12.3km	清水 武治 ②38.05	竹内 譲二 ①37.39	田中 盟三 ③38.34	小山 定彦 ④39.05	難波 光男 ⑥40.47	菅沼 友一 ⑦40.21	上田 友之 ⑤40.01	大辻 清治 ⑩42.08	鈴木 盛雄 ⑧41.08	若井 春雄 ⑨40.06	吉田 隆行 ⑫42.46	高橋 明彦 ⑪42.46
10	～珠洲	10.7km	川島 克実 ③33.09	原田 忠夫 ①32.22	中野 善行 ②32.58	安原 達也 ④33.14	丸山 秀喜 ⑥34.34	石井 勇 ⑦34.35	福田 雅広 ⑤35.18	木内 一彰 ⑩33.21	及川 雅彦 ⑧35.44	表 和夫 ⑨37.18	村上 信広 ⑫36.45	溝淵 重之 ⑪36.58
第一日	141.8km		①7.17.50	②7.17.54	③7.22.57	④7.29.05	⑤7.38.15	⑥7.43.45	⑦7.44.02	⑧7.49.05	⑨7.59.18	⑩8.10.48	⑪8.12.03	⑫8.07.53

表2. 第5回全日本選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会（第2日目、第3日目）

チーム名(監督)			日本体育大学 (岡野 章)	大東文化大学 (青葉昌幸)	中京大学 (中尾隆行)	東京農業大学 (井口輝男)	大阪体育大学 (豊岡示朗)	駒澤大学 (森本 葵)	大阪商業大学 (下田喜久馬)	京都産業大学 (藤山靖夫)	東北学連 (菅原耕二)	北信越学連 (親谷均二)	中国・四国学連 (久保田康毅)	北海道学連 (大村良治)
区間														
11	珠洲 ～粟津	14.4km	高橋 勝好 ①43.15	原田 忠夫 ②43.49	の場 幸夫 ③44.41	安原 達也 ④45.08	谷口 利広 ⑤49.15	高木 勝義 ⑥46.32	奥田 豊一 ⑦45.47	児島 勝 ⑧46.48	高橋 研哉 ⑨45.03	大塚 偉介 ⑩46.11	国重 輝夫 ⑪49.33	石川 陽孝 ⑫53.40
12	～狼煙	6.9km	榎木 宏 ①20.47	鞭馬 講二 ②21.30	橋本 一政 ③21.37	小島 要 ④22.38	村上 和弘 ⑤22.41	大沢 隆司 ⑥21.42	天野 精三 ⑦20.54	木内 一彰 ⑧22.38	植木 浜一 ⑨22.42	大総 正篤 ⑩23.20	中川 寿朗 ⑪23.43	岩崎 雅史 ⑫24.40
13	～大谷	16.7km	田ノ上貢一 ②53.42	松田 強 ①52.24	角 三喜男 ③55.07	後藤 茂樹 ④58.17	西野 秀樹 ⑤56.32	戸村又治朗 ⑥56.01	蔵貫 知吉 ⑦100.48	西田 義則 ⑧58.36	村山 達平 ⑨67.10	堀 貴志夫 ⑩59.27	出井 秀樹 ⑪105.40	岡野 進 ⑫100.57
14	～南志見	17.5km	町野 英二 ②57.02	安田 亘 ①56.51	岸根 修 ④100.21	桑原 清 ③100.03	石橋 剛 ⑦101.57	緒形 光平 ⑩104.32	細川 寛 ⑩102.14	前芝 利秋 ⑫105.23	黒田喜久夫 ⑥101.49	小寺 隆光 ⑧102.14	森下 誠 ⑤100.54	大畑 孝裕 ⑪104.37
15	～輪島	14.7km	堀内 清輝 ④48.55	森下 茂樹 ①46.12	萩原 久幸 ③48.36	井口 修 ⑥51.27	木村 俊 52.26	田中 秀男 ②48.27	石崎 栄司 ⑨52.18	山口 潔 ⑦51.25	渡会 省吾 ⑤49.33	白崎 繁 ⑪53.38	東川 安雄 ⑫54.34	水井 裕彦 ⑥51.04
第二日		70.2km	②3.43.41	①3.40.46	③3.50.22	④3.57.33	⑤3.57.14	⑦4.02.01	⑧4.04.50	④3.56.17	⑨4.04.50	⑩4.14.24	⑫4.14.58	
通算		212.0km	②11.01.31	①10.58.40	③11.13.19	④11.26.38	⑤11.40.59	⑦11.46.03	⑧11.53.55	⑨11.55.35	⑩12.15.38	⑫12.26.27	⑬12.22.51	
16	輪島 ～上縄又	8.2km	高橋 勝好 ①25.09	永田 耕三 ④26.01	中山 勇生 ③25.56	小菅 克巳 ②25.50	脇本 和義 ⑤26.14	高橋 秀春 ⑥26.33	蔵貫 知吉 ①28.17	大辻 清治 ⑨27.30	加藤 昇 ⑧27.21	大塚 偉介 ⑦27.04	村上 信広 ⑩28.01	水井 裕彦 ⑫28.30
17	～門前	13.1km	関口 孝久 ③40.45	兼田 賢一 ①39.52	宇高 正美 ④40.57	服部 誠 ②39.53	岡本 清 ⑤41.14	佐藤 次男 ④44.23	小林 寿朗 ①41.26	今北 友幸 ⑩45.08	井馬 正夫 ⑧43.37	若井 春雄 ⑦43.03	妹尾 武治 ⑪45.23	佐藤 円治 ⑫45.48
18	～剣地	11.4km	古川 久司 ①34.47	味沢 善朗 ②35.18	山下 健次 ③35.19	峯岸 良明 ④38.21	藤原 郁生 ⑤36.27	田中 秀男 ⑥36.36	上田 友之 ⑦37.23	中村 健二 ⑨38.40	鈴木 盛雄 ⑦38.17	白崎 繁 ⑩39.01	木村 孝志 ⑪39.37	星野 昌一 ⑫39.28
19	～富来	12.8km	和田 誠一 ①39.00	東 博文 ④40.59	浜口 昇 ⑥41.35	枝 啓司 ⑦42.09	兼島 英樹 ④41.12	大沢 隆司 ⑤41.22	天野 精三 ②40.00	鈴木 龍次 ⑨42.52	村山 達平 ⑧42.19	山本 太一 ⑪45.14	吉田 隆三 ⑫46.03	高橋 明彦 ⑬44.47
20	～直海	15.1km	石倉 義隆 ①46.08	下村 剛 ④47.18	岡田 耕三 ②46.30	小山 定彦 ⑦51.06	橋本 元栄 ⑤50.30	宮崎 慶喜 ④49.34	赤松 由章 ⑥50.47	百合野康也 ⑩51.14	横地 博 ⑧53.00	井口 昌一 ⑨52.21	黒木 潤 ⑫53.24	久保田 実 ⑬53.05
21	～志賀	8.6km	町野 英二 ①25.47	清水 豊 ④27.13	岸根 修 ③27.12	矢島 修 ②27.05	小柳 繁清 ⑤27.45	松原 政幸 ⑧28.26	前田 和久 ⑩31.48	飯干 哲雄 ⑨29.34	黒田喜久夫 ⑥27.54	伊東 正吾 ①30.27	本東地英視 ⑦28.22	出塚 守 ⑫29.10
22	～羽咋	14.1km	大金 一幸 ①43.33	秋枝 実男 ④44.44	曾山 利和 ②44.20	近藤 和夫 ④44.57	藤田 洋介 ⑦45.51	佐藤 政雄 ⑥45.07	水川 浩治 ⑩51.04	南谷 勝夫 ⑤45.02	及川 雅彦 ⑧47.21	小寺 隆光 ⑩48.01	川添 行文 ⑨47.34	岡野 進 ⑫48.59
23	～高松	15.6km	今野 秀悦 ①48.44	竹内 譲二 ②49.19	山村 勇 ④49.59	藤本 孝明 ⑤51.54	難波 光男 ⑨52.37	宮川 寿夫 ⑥51.35	亀谷 宏治 ④50.51	井上 正氏 ⑤51.25	加藤 慎一 ①52.59	堀 貴志夫 ⑩54.44	小畑 卓司 ⑦51.50	後藤 和正 ⑫52.55
24	～津幡	12.8km	清水 武治 ②39.54	鞭馬 講二 ①39.48	福田 輝男 ④40.49	根津 正行 ⑦42.07	丸山 秀喜 ⑥41.47	黒木 靖 ⑧42.31	奥田 豊一 ③40.40	児島 勝 ⑤41.33	武田 正 ⑩44.58	梶原 正己 ①45.35	山本 勝正 ⑨42.49	宮田 悟 ⑫47.18
25	～森本	7.4km	榎木 宏 ①21.55	松本 始 ②22.43	田中 盟三 ③22.47	小形富治男 ⑤23.27	村山 和弘 ⑥23.44	石井 勇 ④22.54	豊島 伸好 ⑦24.04	北庄司親男 ⑧24.02	佐野 正 ①25.43	高木 秀明 ⑨25.41	中川 寿朗 ⑩24.47	大畑 孝裕 ⑫24.30
26	～金沢	12km	荒野 吉之 ②37.42	松田 強 ①37.03	中野 善行 ③38.01	佐藤 博 ④38.13	高藤敬一郎 ⑧40.40	加瀬 治 ⑤39.27	金広 龍操 ⑥39.45	木内 一彰 ⑦40.12	植木 浜一 ⑨40.50	親谷 均二 ⑩41.42	森下 誠 ⑫40.54	溝淵 重之 ⑬44.23
第三日		131.1km	①6.43.24	②6.50.08	③6.53.25	④7.05.02	⑤7.08.01	⑥7.08.28	⑧7.18.07	⑦7.17.14	⑨7.24.19	⑩7.32.53	⑪7.28.44	⑫7.38.53
通算		343.1km	①17.44.55	②17.48.48	③18.06.44	④18.31.40	⑤18.49.07	⑥18.49.27	⑦19.04.10	⑧19.11.09	⑨19.19.54	⑩19.48.31	⑪19.55.11	⑫20.01.44

2. 第6回大会 1973（昭和48）年

第6回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競争大会は、11月23日から25日までの3日間、26区間341.6kmのコースに12チームが参加して健脚を競った⁽⁶⁾。

第1回大会から5連勝している日体大が初日からトップに立って他チームを3分近く引き離した。ところが2日目は3位に落ち、通算では2位の大東文化大にわずか11秒差

に追い上げられる攻防戦を展開。勝負は最終日に持ち込まれた。大東大はこの日、19区で日体大に1分31秒の大差をつけながら、23区で日体大の大逆転劇にあい、わずか59秒差で日体大に勝利を譲った。タイムは17時間37分46秒であった。

後の大会回顧でも「日本体育大学と大東文化大学が、すばらしい優勝争いを演じた。そのドラマは最終区まで持ち越され、17時間半に渡る激闘は、わずか59秒と言う差によって雌雄が決せられた。

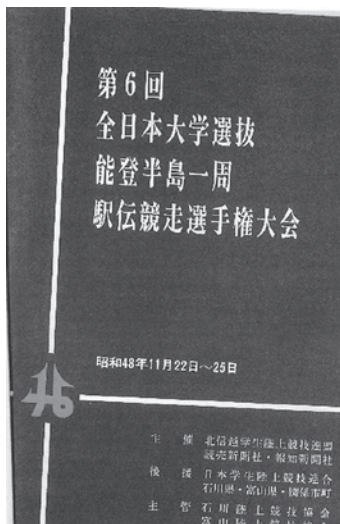


写真3. 第6回大会プログラム表紙



写真4. 第6回大会コース図

表3. 第6回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会(第1・2・3日)

チーム名(監督)			日本体育大学 (岡野 章)	大東文化大学 (青葉昌幸)	中京大学 (中尾隆行)	東京農業大学 (井口輝男)	九州学連 (小宮 勝)	駒澤大学 (森本 葵)	大阪体育大学 (豊岡示朗)	東北学連 (菅原耕二)	北信越学連 (山口照夫)	大阪商業大学 (下田喜久馬)	中国・四国学連 (久保田康毅)	北海道学連 (大村良治)
区間														
1	高岡 ～氷見	18.0km	清水 武治 ②55.16	清水 豊 ④55.56	田中 盟三 ①55.12	岩瀬 哲治 ⑤55.57	馬場 正信 ⑦56.53	黒木 靖 ③55.54	兼島 英樹 ⑥56.16	高橋 研哉 ①59.01	堀 貴志夫 ⑩58.08	小林 寿朗 ⑧57.02	妹尾 武治 ⑫1.00.20	後藤 和正 ⑨57.53
2	～黒崎	18.9km	笹淵 兼一 ⑤58.21	秋枝 実男 ⑥58.38	宇高 正美 ③57.50	服部 誠 ①55.47	喜多 秀喜 ②57.21	宮川 寿夫 ⑦59.59	岡本 清 ④58.17	鈴木 盛雄 ⑨1.02.25	小寺 隆光 ⑪1.03.56	奥田 豊一 ⑧1.01.14	家原 均 ⑫1.07.56	田中 幸夫 ⑩1.03.41
3	～七尾	15.7km	今野 秀悦 ④37.58	松田 強 ①47.15	田中 敏彦 ④49.44	佐藤 誠 ②47.46	田中 泰斗 ⑤50.54	菅沼 友一 ⑥51.29	難波 光男 ⑦52.07	植木 浜一 ⑨53.26	山本 太一 ⑩53.39	村上 政隆 ②54.17	黒木 潤 ⑧52.38	岡野 進 ①53.53
4	～中島	18.1km	和田 誠一 ①55.32	下村 剛 ④56.42	毛利 奉文 ③56.20	山本 吉光 ⑤57.19	西山 弘俊 ⑦59.05	渡辺 光 ②56.19	葦原 慶治 ⑥58.51	高橋 守 ⑨1.01.26	梶原 正己 ⑪1.03.40	亀谷 宏治 ⑩1.02.28	岡田 泰定 ⑧1.00.34	宮田 悟 ⑫1.05.50
5	～穴水	16.7km	荒野 吉之 ①52.24	菊池 一成 ⑤55.10	曾山 利和 ③53.37	佐藤 博 ②52.41	都留 明男 ⑥55.46	加瀬 治 ④54.46	藤田 洋介 ⑦56.18	末永 真 ⑧58.25	菊池 芳次 ⑨58.42	塩川 智之 ⑩58.44	出井 秀樹 ⑫1.01.06	金田 房雄 ①1.01.52
6	～上曾山	11.0km	大金 一幸 ③35.14	味沢 善朗 ①34.20	浜口 昇 ②35.13	枝 啓司 ⑤36.03	吉田 孝二 ③35.14	戸村又治朗 ⑥36.58	脇本 和義 ⑦37.15	山本 貴 ⑩38.47	牧 昭夫 ⑪38.51	蔵貫 吉和 ⑧37.58	中下 利光 ⑨38.25	山田 哲 ⑫44.02
7	～鶴川	11.4km	竹林 昌広 ①34.24	金田 五郎 ③34.35	西井清四郎 ⑤36.03	藤本 孝明 ②34.34	雛竹 政秋 ④35.43	石井 勇 ⑦36.20	石橋 剛 ⑥28.51	小野寺文朗 ⑩38.34	高木 秀明 ⑨37.39	金広 龍操 ⑧37.30	福田 恵 ⑫43.10	榎 正信 ①41.22
8	～宇出津	9.0km	塩塚 秀夫 ①27.37	橋口 弘 ②28.30	高本 一志 ③28.49	福田 栄作 ⑦29.17	木村 宏 ⑤29.02	緒形 光平 ⑥29.04	平山 猛 ④28.51	布施 幸雄 ⑩30.36	伊東 正吾 ⑧30.08	橋本 長政 ⑪32.08	平井 章 ⑨30.22	田村 祐一 ⑫32.52
9	～松波	12.3km	日下 賀之 ①38.43	伊藤 敏康 ②39.03	宮本 勝人 ④39.54	小山 定彦 ⑤40.05	峰崎 龍之 ③39.46	江藤 雅彦 ⑥40.32	大城 一利 ④27.07	佐藤 健二 ⑦41.44	山内 正人 ⑩43.43	石崎 英司 ⑧42.26	東川 安雄 ⑫45.10	青山 延広 ①44.49
10	～珠洲	10.7km	村上 邦弘 ②33.19	鞭馬 講二 ①32.20	岡森 力哉 ⑤33.40	矢島 修 ③33.33	平島 敏之 ④33.37	福元 哲也 ⑥33.43	高岡 光男 ⑧33.43	鈴木 長敏 ⑩34.53	白崎 繁 ⑨36.14	香川 英一 ⑫39.37	山本 勝正 ⑧34.56	佐藤 五郎 ⑩36.02
第一日		141.8km	①7.18.48	②7.22.29	④7.26.24	③3.52.11	⑤7.33.21	⑥7.35.04	⑦7.39.58	⑧7.59.17	⑨8.04.40	⑩8.07.57	⑪8.08.57	⑫8.22.25
11	珠洲 ～粟津	14.4km	高橋 勝好 ②45.23	橋口 弘 ④55.58	岡田 善克 ③45.36	佐藤 誠 ①43.59	米良 隆夫 ⑥46.23	大東 快任 ⑦46.36	平山 猛 ⑩48.38	高橋 研哉 ③45.32	堀 貴志夫 ⑨47.19	小林 寿朗 ⑧47.04	国重 輝夫 ⑫49.16	岸田 幸也 ①48.53
12	～狼煙	6.9km	縣 靖治 ⑤22.05	下村 剛 ②20.57	中島 敏一 ③21.20	服部 誠 ①20.16	御堂 輝昭 ⑥22.13	滝川 博明 ⑧23.05	高藤敬一郎 ⑦22.55	岩谷 雅彦 ⑨23.47	横山 勉 ②26.05	奥田 豊一 ④21.27	森 正敏 ⑩24.03	青山 延広 ①24.34
13	～大谷	16.7km	田ノ上貢一 ②53.03	大久保初男 ①51.52	角 三喜男 ③53.51	後藤 茂樹 ⑥56.47	岸尾 秀樹 ④56.23	高木 勝義 ⑦57.16	丸山 秀喜 ⑩58.54	黒田喜久夫 ⑤56.27	小寺 隆光 ⑧57.47	村上 政隆 ⑨58.35	木村 孝志 ⑫1.01.14	伊折 宗敬 ⑦37.04
14	～南志見	17.5km	関口 孝久 ②55.47	竹内 譲二 ③55.54	宇高 正美 ①54.31	岐崎 利美 ④58.35	小湊 国昭 ⑥1.00.06	松原 政幸 ⑤59.15	村上 和弘 ⑧1.01.31	尾崎 官一 ⑦1.00.34	表 和夫 ⑨1.03.18	赤松 由章 ⑪1.11.05	吉田 隆行 ⑫1.15.22	桑原 泰二 ①1.06.07
15	～輪島	14.7km	中村 高行 ②47.43	味沢 善朗 ①45.50	橋本 一政 ③48.00	桑原 清 ⑤23.34	上原 忠雄 ④49.50	高橋 秀春 ⑦50.32	片山 誠一 ⑩52.16	植木 浜一 ⑥50.13	菊池 芳次 ⑨51.22	亀谷 宏治 ④48.52	新田 秀樹 ⑫52.57	岡野 進 ⑧51.18
第二日		70.2km	③3.44.01	①3.40.31	②3.43.18	④3.52.11	⑤3.54.55	⑦3.56.41	⑧4.04.20	⑥3.56.33	⑨4.05.51	⑩4.07.03	⑫4.22.54	①4.11.07
通算		212.0km	①11.02.49	②11.03.00	③11.09.42	④11.15.15	⑤11.28.16	⑥11.31.48	⑦11.44.18	⑧11.55.50	⑨12.10.31	⑩12.15.00	⑪12.31.51	⑫12.33.32
16	輪島 ～上縄又	8.2km	中村 高行 ③25.45	鞭馬 講二 ①25.18	宮本 勝人 ④26.03	枝 啓司 ②25.39	木村 宏 ⑤26.36	石井 勇 ⑥26.43	脇本 和義 ⑧27.20	黒田喜久夫 ⑦26.55	菊池 芳次 ⑩28.18	細川 覚 ①28.41	平井 章 ⑨27.48	桑原 泰二 ⑫29.04
17	～門前	13.1km	今野 秀悦 ④40.01	大久保初男 ②39.36	曾山 利和 ④42.02	服部 誠 ①39.00	喜多 秀喜 ③39.43	黒木 靖 ⑤41.02	葦原 慶治 ⑥42.00	高橋 守 ⑧43.04	高木 秀明 ⑩44.56	蔵貫 吉和 ⑨45.02	家原 均 ⑫43.38	金田 房雄 ①46.15
18	～剣地	11.4km	荒野 吉之 ②34.19	菊池 一成 ①34.09	浜口 昇 ④35.18	佐藤 誠 ③34.33	田中 泰斗 ⑤35.29	緒形 光平 ⑧37.42	藤田 洋介 ⑥36.02	鈴木 長敏 ⑨38.02	伊東 正吾 ⑩38.02	松原 和良 ⑫40.11	出井 秀樹 ①39.41	伊折 宗敬 ⑦37.04
19	～富来	12.8km	田ノ上貢一 ③39.15	竹内 譲二 ①38.55	角 三喜男 ⑤40.28	藤本 孝明 ②39.00	馬場 正信 ④40.22	菅沼 友一 ⑧41.02	兼島 英樹 ⑥40.44	佐藤 健二 ⑩41.26	牧 昭夫 ⑨45.16	小林 寿朗 ⑦40.53	福田 恵 ⑫43.23	岸田 幸也 ①43.27
20	～直海	15.1km	和田 誠一 ②45.59	松田 強 ①45.44	田中 盟三 ⑤46.54	山本 吉光 ③46.32	吉田 孝二 ⑦47.47	渡辺 光 ⑥47.27	岡本 清 ④46.48	末永 真 ⑧50.25	山本 太一 ⑪52.09	塩川 智之 ⑩52.40	黒木 潤 ⑨50.31	田中 幸夫 ⑫51.54
21	～志賀	8.6km	竹林 昌広 ②25.50	永田 耕三 ①25.46	高本 一志 ④26.40	加藤 雅通 ⑦27.13	峰崎 龍之 ③26.15	大東 快任 ⑥27.08	丸山 秀喜 ⑩27.23	安達 正敏 ⑨27.23	向田 和義 ⑧27.23	行武 雅俊 ⑫31.12	森 正敏 ⑨27.49	榎 正信 ①29.51
22	～羽咋	14.1km	清水 武治 ①42.37	金田 五郎 ②43.18	田中 敏彦 ④43.39	佐藤 博 ③43.25	西山 弘俊 ⑤43.45	加瀬 治 ⑦44.34	高岡 光男 ⑥44.29	尾崎 官一 ⑨46.34	表 和夫 ⑩47.01	石崎 英司 ⑫47.35	岡田 泰定 ⑧45.28	工藤 寛 ①47.02
23	～高松	15.6km	大金 一幸 ②47.33	鎌田 茂 ③48.39	毛利 奉文 ④46.45	岩瀬 哲治 ①46.45	平島 敏之 ⑤40.15	宮川 寿夫 ④49.05	難波 光男 ⑩51.41	鈴木 盛雄 ⑧50.16	堀 貴志夫 ⑨51.31	奥田 豊一 ⑦51.00	中下 利光 ⑫53.21	後藤 和正 ①49.51
24	～津幡	12.8km	日下 賀之 ①38.44	伊藤 敏康 ②38.57	岡田 善克 ⑥40.08	小山 定彦 ③39.35	雛竹 政秋 ⑦40.53	戸村又治朗 ⑤39.50	大城 一利 ⑨41.38	布施 幸雄 ⑩41.47	安藤 伸朗 ⑫45.46	亀谷 宏治 ④39.38	妹尾 武治 ⑧41.37	宮田 悟 ①43.43
25	～森本	7.4km	塩塚 秀夫 ①22.17	東 博文 ②22.43	与儀 哲夫 ⑥24.16	村田 訓男 ⑤23.48	御堂 輝昭 ④23.22	福元 哲也 ③23.10	河野 邦夫 ⑩26.57	田村 善明 ⑧25.11	今井 清夫 ⑨27.26	西本 秀則 ⑫27.34	東川 安雄 ⑦25.07	内藤 有恒 ①25.18
26	～金沢	10.5km	関口 孝久 ②32.37	秋枝 実男 ③32.40	宇高 正美 ①32.19	矢島 修 ④33.53	都留 明男 ⑤33.57	江藤 雅彦 ⑥34.02	石橋 剛 ⑧34.54	小野寺文朗 ⑦34.50	白崎 繁 ⑩37.00	金広 龍操 ⑨39.03	新田 秀樹 ⑫36.28	佐藤 五郎 ①35.51
第三日		129.6km	①6.34.57	②6.35.45	④6.44.32	③6.42.25	⑤6.48.24	⑥6.51.38	⑦6.59.41	⑧7.05.53	⑨7.27.20	⑩7.23.27	⑪7.14.51	⑫7.21.20
通算		341.6km	①17.37.46	②17.38.45	③17.54.14	④17.57.40	⑤18.16.40	⑥18.23.26	⑦18.43.59	⑧19.01.43	⑨19.37.51	⑩19.38.29	⑪19.46.42	⑫19.54.52

結局、日本体育大学が6連覇を果たしたが、日体大にとっては本大会ではじめて見せた難産の優勝であった。個人記録としては、東京農大の服部選手が3日間連続し、いずれも区間新記録と言うおまけつきで区間優勝している。この大会に九州学連が初めて登場した。関東の一角をくずすという目標通り、学連連合チームとしては初の5位と言う

健闘もまた素晴らしいものがあった。ただこの1回限りで再び姿を消していることがざんねんでならない。秒差のトップ争いと、九州学連の初参加というニュースに刺激され、沿道の小中学生や幼稚園・保育園児の応援もにぎやかであった。」⁽⁷⁾とその激闘ぶりが述べられている。

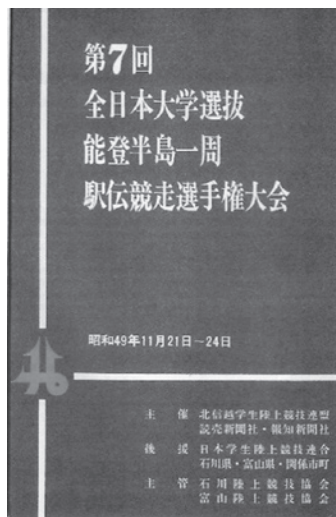


写真5. 第7回大会プログラム表紙



写真6. 第7回大会コース図及び通過予想時刻表

3. 第7回大会 1974（昭和49）年

開催期間は昭和49年11月22日～11月24日。主催は北信越学生陸上競技連盟，読売新聞社，報知新聞社。後援は，日本学生陸上競技連合，石川県，富山県，関係市町。主管は，石川陸上競技協会，富山陸上競技協会である。

参加チームは，北海道選抜，東北選抜，北信越選抜，日本体育大学，順天堂大学，大東文化大学，東京農業大学，中京大学，大阪体育大学，大阪商業大学，京都産業大学，中・四国選抜の12チームである⁽⁸⁾。順天堂が初出場。

読売新聞11月16日朝刊⁽⁹⁾では，第7回大会の見所を次のように述べている。

「今大会の各チームの戦力を探ると，7連覇を狙う日体大は，関東大学3000m障害選手権者村上はじめ笹淵，高橋の4年生トリオ，荒野，和田，竹林の3年生と豊富なレース経験を揃え，全日本大学の800，1500mの覇者，石井（2年）ら新人を加えて選手層の厚さはさすがである。6連覇の立役者となった田ノ上，今野，大金らの卒業による穴を感じさせない。

この日体大が最もマークする大東文化大は昨年の大会で，わずかの差で日体大の6連覇の阻止を逸し，『今年こそは』と初優勝に燃えている。選手の10000mの平均記録が30分21秒4と，超エース級の選手を持たないながらも平均したチーム力が最大の武器。今年始めの青森—東京駅伝に埼玉県代表の6人を始め，12人の選手を送り込み，層の厚さでは日体大に引けを取らない。

2校を追う東京農業大，順天堂大は，やはり，青森—東京駅伝に東京農大が10人，順天堂大が8人の主力選手を送り込み，選手のレース経験は豊富。中村東京農業大監督は『昨年は選手層の薄さから4位に甘んじたが，

今年は新人に力がついたので目標はあくまでも優勝』と強気。順天堂大も初出場でコースを十分知らないというハンデはあるが，帖佐監督の下『日体大，大東文化大，東京農大には負けてられない』とファイトを燃やしている。このほか，昨年3位に食い込んだ中京大は，『チーム力は昨年より上』（中尾監督）。あわよくば2位を狙っている。大阪体育大，大阪商業大，京都産業大の単独チーム，北海道，東北，中・四国の各学連もひそかに上位を狙っている。

地元北信越学連チームは堀，山本，菊池（以上金沢大），梶原（富山大），伊藤，牧（信州大）のベテランが残っており，向田監督も『昨年（9位）以下は考えていない』と自信満々。地元の声援に応える活躍を見せてくれそうだ。」

読売新聞朝刊11月16日⁽⁹⁾の記事では，大会の準備が整った様子を次のように報じている。

「すでに北信越学連チームによって全コースの下見，点検始め，中継点，チーム標識板の作成など大会準備は整った。過去の大会で選手を悩ませた未舗装路や道路改良工事は今回ほとんど姿を消した。」

11月18日の読売新聞⁽¹⁰⁾では“力走する選手に温かい声援を”という見出しで次のように能登駅伝への支援を要請している。

「能登駅伝は，全国屈指のコースだ。過去6回の大会に参加した選手たちは異口同音に，景観と変化に富むコースのすばらしさを褒め称えている。去る26年から続いていた青森—東京15道県対抗駅伝競走大会が今年の大会を最後に，コースの交通事情の悪化を理由に中止になるなど，全国各地の駅伝コースが1つ2つと消えていく中で，第1回からほとんど変わらぬ条件でレースできる

のも、能登ならではの環境の良さからだろう。この好条件の中には、コースの交通整理に当たる警察官はじめ、多くの地元の人たちの目に見えない努力が含まれていることを忘れてはならない。駅伝は多くの人たちの協力と努力で成り立つレース。力いっぱい走る選手に、県民の温かい支援を望みたい。」また 青木重治七尾市長の次の談話を載せている。

「ここ数年、スポーツといえば見るスポーツが全盛で、わずかにボウリングなど屋内でのスポーツが主体だったようだが、この能登駅伝をきっかけに、少しずつ変わってきたようである。能登各地で季節を問わず行われる町内駅伝レースをはじめ、小、中学校での500kmコンペやサッカー、それに家族連れで行うオリエンテーリングなど自分が体を動かす基本的なスポーツが見直されているようである。市が行うスポーツ行事や、市体などの参加者がどんどん増えているなどのニュースを聞くと、大学時代にラグビーをした1人として私まで“若い血”が騒ぐことがよくある。これも能登駅伝が能登の人々に深く根を下ろし、根付いてきた証拠のように思う。車社会の発達で、人間生活から精神的なものを奪いつつあり、さらに交通事情というだけの理由で最近あちこちのマラソン、駅伝が消えている。美しい自然が売り物の能登半島だけに“車を止めても”この大学選抜駅伝を後世に残し、能登半島35万人住民全体が、ひた走る若人たちに心からの声援を送りたいものである。」

開会式の様子は読売新聞11月22日朝刊⁽¹⁾で次のように報じられている。

「開会式は11月21日午後2時から読売新聞社北陸支社5階会議室で行われた。初参加の順天堂大など12チームの監督、選手代表ら100人余りが出席、北信越陸連の加藤陽一幹事長が開会宣言、前回総合優勝の日体大から優勝旗が返還され、同大にレプリカが贈られた。稲置繁男北信越陸連会長が『若さのベストを発揮して変化の激しい能登の気候、地理を克服して下さい』と挨拶。木村一義読売新聞社北陸支社長は『大会も三大学生駅伝の1つとして定着してきた。駅伝は、個々の苦しさをチームワークで乗り切る、いわば社会の縮図だ。ベストコンディションで日ごろの成果を出し切って下さい』と選手の力走を祈った。島田純行大会委員長（同支社業務部長）が各チーム主将に、駅伝シンボルのたすきを手渡したのに応え、大阪体育大の葦原慶治主将（3年）が『チームと母校の榮譽のため正々堂々と戦います』と力強い選手宣誓をし、会場から大きな拍手を浴びた。たすきの色は北海道学連＝青色、東北学連＝緑色、北信越学連＝桃色、日体大＝茶色、大東文化大＝黄緑、順天堂大＝紺色、東京

農大＝黄色、中京大＝濃茶、大阪商業大＝朱色、大阪体育大＝灰色、京都産業大＝金茶、中・四国学連＝橙色。参加12チームは、すでにコースの下見や、最終トレーニングも終えて万全の体制で整えており、あとはスタートの号砲が鳴るのを待つばかりだ。」

第1日目の大会のようを読売新聞11月23日朝刊⁽²⁾は次のように報じている。

「第1日目は青空がのぞいたかと思うと、激しい雲が降り出すという猫の目のように変わる荒天に見舞われ、選手にとっては悪コンディションとなった。1区は伏木に入る4km地点まではほぼ一団となって通過。氷見市内に入る頃には、混戦から松本（大東文化大）、小倉（順天堂大）、中村（日体大）が抜け出してトップグループを作り、約30m遅れて小菅（東京農大）、田中盟（中京大）、藤田（大阪体育大）が追走。地元北信越学連の堀はペースを乱し、スタート後5km地点で、角谷（京都産業大）から150m遅れて最下位になり、苦しい戦い。

2区は、東京農業大頼みの切り札、服部が両足を跳ね上げる独特なフォームで期待通りの力走。中継後、次々に4人を抜いて9km地点の氷見市大境でトップに立ち、約300mリードして3区の藤本へ。3区では、先頭グループの東京農大、日体大、大東文化大、順天堂大、中京大と大阪体育大以下の各チームとの差が1km以上でき、首位争いは上位5校に絞られた。5区に入り日体大は、エースの高橋が好走。中間点では一時、山岡（東京農業大）に100mの差を付け、52分20秒の好記録で穴水中継所へ。山岡も後半追い込み、同タイムで第6区へ引き継いだ。第6区の穴水―上曾山からは、青空がのぞく時間も長くなり、波静かな能登内浦を右手に、コンディションはやや上向き。6区では東京農大に1秒差で再び首位を譲った日体大は、7区の塩塚、9区の日下、最終10区の北中と若手がそろって区間最高、区間新記録を立て、『完全にペースに乗って走った』（岡野監督の話）という活躍ぶり。7区以降、首位を堅持した。7区まで日体大と競り合った東京農大は、福田（8区）、壺岐（9区）がややブレーキを起こして後退。10区で、それまで順天堂大と3、4位争いを演じていた大東文化大が久保の区間新記録の大奮闘で、東京農大に20m差を付けてゴール。順天堂大も東京農大へ47秒差と追い上げ上位に食い込んだ。中京大は、首位日体大に10分以上の差をつけられ、2日目以降のレースをやや苦しくした。

このほか大阪体育大、東北学連、大阪商業大、中・四国学連、北海道学連の各チームは、それぞれ昨大会の1日目合計タイムを上回る健闘をし、北信越学連は伊藤、高木らの後半の踏ん張りでも11位に滑り込んだ。」

表4. 第7回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会（第1日目）

チーム名(監督)		大東文化大学 (青葉昌幸)	日本体育大学 (岡野 章)	順天堂大学 (帖佐寛章)	東京農薬大学 (中村 実)	中京大学 (中尾隆行)	大阪体育大学 (豊岡示朗)	京都産業大学 (伊藤輝雄)	東北学連 (鈴木 徹)	中国・四国学連 (久保田康毅)	大阪商業大学 (山田地太郎)	北海道学連 (大村良治)	北信越学連 (向田和義)	
区間														
1	高岡 ～氷見	18.0km	松本 始 ①55.49	中村 高行 ③55.53	小倉 庸夫 ②55.50	小菅 勝己 ⑤56.56	田中 盟三 ④56.52	藤田 洋介 ⑥57.27	南谷 勝夫 ①59.28	末永 真 ⑧58.14	森下 誠 ⑨58.44	藤原 安晃 ⑩59.09	田村 利光 ⑦57.53	堀 貴志夫 ⑫1.01.27
2	～黒崎	18.9km	菊池 一成 ⑦1.00.54	荒野 吉之 ③58.33	勾坂 清貴 ④58.37	服部 誠 ①56.26	長友 清美 ②57.32	森 久志 ⑧1.01.41	井上 正氏 ⑤1.00.14	高橋 守 ⑨1.02.47	石野 真也 ⑪1.07.15	亀谷 宏治 ⑥1.00.38	田中 幸夫 ⑩1.05.23	菊池 芳次 ⑫1.07.22
3	～七尾	15.7km	鞭馬 講二 ①47.35	和田 誠一 ②48.29	朝倉 忠勝 ④49.52	藤本 孝明 ③49.05	田中 敏彦 ⑥51.24	高岡 光男 ⑤50.30	山口 潔 ⑧52.22	成沢 正宏 ⑨52.33	黒木 潤 ⑨52.52	小林 寿朗 ⑦52.16	佐藤 五郎 ⑩53.59	牧 昭夫 ⑪54.23
4	～中島	18.1km	秋枝 実男 ③47.25	関口 孝久 ①56.57	池田 久夫 ②57.19	山本 吉光 ④57.28	毛利 泰文 ⑤59.29	葦原 慶治 ⑥1.00.14	西田 義則 ⑦1.01.07	佐藤 健二 ⑨1.02.59	江口 修 ⑩1.03.22	村上 政隆 ⑧1.01.20	工藤 寛 ⑫1.08.05	山本 太一 ⑪1.05.19
5	～穴水	16.7km	金田 五郎 ①51.32	高橋 勝好 ③52.20	田中 登 ②52.04	山岡 秀樹 ④52.20	宇高 正美 ⑤52.46	丸山 秀喜 ⑥52.54	今北 友幸 ⑦54.38	白土 彦栄 ⑨58.10	浅野 幸雄 ⑩59.37	石崎 英司 ⑧57.16	出塚 守 ⑩58.45	立蔵 義春 ⑪58.52
6	～上曾山	11.0km	竹内 譲二 ④34.07	関 英雄 ②33.53	中村 典之 ⑤34.10	保谷 藤樹 ①33.49	浜口 昇 ③33.56	大城 一利 ⑥35.32	木村 憲二 ⑦36.06	山本 貢 ⑨36.52	内藤 立夫 ⑧36.38	黒田 清隆 ⑩37.29	青山 延広 ⑫40.15	梶原 正己 ⑪39.46
7	～鶴川	11.4km	小林 雄二 ④33.52	塩塚 秀夫 ①33.10	入江 利昭 ②33.27	岩瀬 哲治 ④33.27	星島 隆昌 ⑤34.18	森崎 敏隆 ⑥40.26	伊藤 達郎 ⑦35.49	鈴木 長敏 ⑨36.47	福田 恵 ⑧36.24	松原 和良 ⑩38.56	田中 良和 ⑩39.00	伊藤 正吾 ⑨37.46
8	～宇出津	9.0km	橋口 弘 ②27.09	村上 邦弘 ③27.24	高橋 秀一 ①26.55	福田 栄作 ④27.38	田村 卓美 ⑤27.39	高藤敬一郎 ⑦29.06	宮本 志郎 ⑨29.30	加藤 宗英 ⑥28.55	山崎 佳孝 ⑧29.19	橋本 長政 ⑫32.31	明官 秀隆 ⑪32.12	棟朝 秀一 ⑩31.53
9	～松波	12.3km	森田 義三 ③38.42	日下 賀之 ①37.33	大谷 久夫 ②38.39	岐枝 利美 ④38.21	角 三喜男 ⑤39.21	和久田 弘 ⑥40.26	堀土 章 ⑦40.50	扇子 弘 ⑧41.12	佐藤日出夫 ⑩43.17	大谷 利春 ⑩43.26	梅本 弘 ⑫44.29	高木 秀明 ⑪41.32
10	～珠洲	10.7km	大久保初男 ①31.16	北中 純一 ②32.16	木崎 和夫 ④32.39	矢島 修 ③32.19	中山 勇生 ⑤33.46	平山 猛 ⑥33.51	藤倉 勇 ⑦34.37	加藤 昇 ⑧34.41	新田 秀樹 ⑨34.47	松田 三男 ⑫39.33	中西 弘和 ⑪36.15	山内 正人 ⑩35.36
第一日	141.8km	②7.18.25	①7.16.28	④7.19.30	③7.18.43	⑤7.27.03	⑥7.36.37	7.44.41	⑧7.55.10	⑨8.02.15	⑩8.02.34	⑫8.16.16	⑪8.13.56	

沿道での応援の様子を読売新聞11月23日朝刊¹²⁾は次のように報じている。

「七尾中継点での引き継ぎは氷雨の中で行われ、応援の市民たちは傘をさしながら選手を応援した。同中継点で最終選手が通り過ぎるまで仁王立ちになり、選手たちを激励していたのは北村一男同市収入役。同収入役は市商工観光課長時代、能登駅伝の実現に努力。以来、毎回、必ず応援に出ている。「能登半島の観光宣伝もあって、能登駅伝の実現に尽力したが、おかげで、この駅伝が能登半島観光ブームの契機になったようだ。全国的に駅伝が廃止になる傾向があるが、能登の自然と人情を全国に広げるためにも、これから35万能登住民とともに能登駅伝を温かく見守っていきたい。」

第9中継点がある鳳至郡能都町宇出津では、選手が通る新町通りに、夕方の買い物客や小中学生、商店主など約1000人が、小旗を振って選手を出迎え、雨模様の中を必死に走る選手たちに、盛んに声援を送っていた。」

能登駅伝は、北信越の大学長距離選手のレベルアップだけでなく、スポーツの振興、観光宣伝などの効果があり、地元の人々に元気を与えていると評価されていたことが分かる。

第2日目の大会の模様を読売新聞11月24日朝刊¹³⁾は次のように報じている。

「朝のうち雲の多かった空模様も、正午近くには晴れ間も出る駅伝日和に、各選手は、内浦から外浦をひた走り、2日目のゴールの輪島市へ向け、快調にとばした。この日は祝日と重なり、沿道では家族ぐるみで力走する選手に声援を送る姿が目立ち、駅伝ムードは急激に盛り

上がった。珠洲市役所をスタート後、レース展開は1日目同様、日体大、大東文化大、順天堂大、東京農大の先頭グループに、やや遅れて中京大が続き、この後を東北学連、大阪商業大、大阪体育大などが追う形になった。混沌とした首位争いは、12区に入ると、服部（東京農大）、浅田（日体大）が先頭に並んで競り合い、3km地点では服部が快走。2位以下を引き離れた。大東文化大・塩野も中間点を過ぎるあたりで、順天堂大・新原を抜いて浅田を追い上げ、狼煙の中継点は東京農大、大東文化大、日体大、順天堂大の順で通過した。13区は、3日間の全区間を通じて最も難しいラケット道路が区間中央にある。大東文化大はこの難区間に経験者大久保を起用した。大久保は上り、下りの急坂や急カーブを、平地のように軽い足取りで突っ走り、区間新記録でトップに立った。東京農大は、小野寺のブレーキで日体大、順天堂大にも抜かれ4位に転落。12区での服部の貯金を帳消しにした。大東文化大は、14、15区も阿部、竹内が大久保に負けないスピードに乗った走りを見せ、『欲を言えば13、14、15区の3人にもう1つの伸びがほしかったが、まあ上出来のほう』（青葉同大監督）という予想通りの活躍で、日体大を大きく引き離して2日目のゴール。日体大は『5人とも自分の力を十二分に出した。2位になったのは、大東文化大が速すぎたため』（岡野同大監督）。しかし、この結果、トップの座を降りることになり、東京農大、順天堂大は首位との差を縮めることができないまま、最終日に望みを託した。中京大は高橋、中瀬ら若手の活躍で5位を確保。1日目11位の地元北信越学連は、菊池らの力走にもかかわらず、12位。通算で北海道学連より1分16秒上回るだけで、最終日の奮起が期待される。」

表5. 第7回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会(第2日目, 第3日目)

チーム名(監督)		大東文化大学 (青葉昌幸)	日本体育大学 (岡野 章)	順天堂大学 (帖佐寛章)	東京農業大学 (中村 実)	中京大学 (中尾隆行)	大阪体育大学 (豊岡示朗)	京都産業大学 (伊藤輝雄)	東北学連 (鈴木 徹)	中国・四国学連 (久保田康毅)	大阪商業大学 (山田地太郎)	北海道学連 (大村良治)	北信越学連 (向田和義)
区間													
11	珠洲 ～粟津	14.4km	橋口 弘 ④43.53	石井 隆士 ①43.18	中村 典之 ③43.45	藤本 孝明 ②43.24	中島 敏一 ⑤45.31	石橋 剛 ⑨47.24	日紫 滋 ⑧47.09	及川 雅彦 ⑥46.18	白石 明彦 ⑩48.53	小林 寿朗 ⑦46.33	北信越学連 ⑪49.38
12	～狼煙	6.9km	塩野 一昭 ②20.39	浅田 仁也 ③21.25	新原 保徳 ⑤21.44	服部 誠 ①20.13	上園 政治 ④21.35	清水 茂晴 ⑦22.30	中田 栄一 ①24.13	小野寺文朗 ⑨23.09	西本 博則 ⑩24.02	藤原 安晃 ⑥21.55	黒部 節雄 ⑧22.54
13	～大谷	16.7km	大久保初男 ①50.38	竹林 昌広 ②52.06	枝松 武彦 ③52.35	小野寺貞夫 ⑥54.34	中瀬 敬夫 ④52.59	木村 俊 ⑦55.52	山口 晴久 ⑨58.11	末永 真 ⑤53.34	沖 幸治 ⑩59.09	村上 政隆 ⑧56.36	田村 祐一 ①58.59
14	～南志見	17.5km	阿部 和美 ①53.16	斗高 克敏 ②53.39	中橋富士夫 ⑤56.25	小出 哲三 ④55.37	高橋 一志 ③54.19	大和 忠広 ⑩59.39	村松丈太郎 ⑧56.35	尾崎 官一 ⑨59.05	中下 利光 ⑦59.00	塩川 智之 ⑩59.44	遠藤 正彦 ⑧59.14
15	～輪島	51.1km	竹内 譲二 ①45.18	興水 勝美 ②45.43	鈴木 秀夫 ③47.06	山崎 寛司 ⑥47.25	小西 正富 ⑤47.17	村上 和弘 ⑧50.44	前田 勝彦 ⑩52.01	岩谷 雅彦 ⑦48.35	横山 暁 ①52.26	亀谷 宏治 ④47.13	金田 房雄 ⑩54.07
第二日		70.6km	①3.33.44	②3.36.11	④3.41.13	③3.41.13	⑤3.41.41	⑧3.52.01	⑨3.58.09	⑥3.50.41	⑩4.03.30	⑦3.52.01	①4.05.16
通算		212.4km	①10.52.09	②10.52.39	④11.01.05	③10.59.56	⑤11.08.44	⑧11.32.46	⑦11.42.50	⑥11.45.51	⑩12.05.45	⑨11.54.35	①2.21.32
16	輪島 ～上縄又	7.8km	塩野 一昭 ②25.02	中村 高行 ③25.03	木崎 和夫 ⑤25.27	吉岐 利美 ③25.03	中瀬 敬夫 ⑤25.19	高岡 光男 ①24.50	日紫 滋 ⑧26.48	加藤 宗英 ⑦26.34	山崎 佳孝 ⑨27.13	石崎 英司 ⑩27.17	黒部 節雄 ①27.57
17	～門前	13.1km	竹内 譲二 ②42.41	日下 賀之 ④42.58	入江 利昭 ③42.53	服部 誠 ①41.39	田中 敏彦 ⑥44.38	葦原 慶治 ⑤43.18	南谷 勝夫 ⑧45.37	佐藤 健二 ⑦44.56	石野 真也 ⑨46.56	蔵貫 吉友 ⑩48.08	田中 幸夫 ①47.05
18	～剣地	11.4km	松本 始 ④40.12	荒野 吉之 ③39.48	高橋 秀一 ②39.47	藤本 孝明 ①39.15	上園 政治 ⑤41.14	丸山 秀喜 ⑥41.52	木村 憲二 ⑦42.46	白土 彦栄 ⑩45.20	浅野 幸雄 ⑨44.34	塩川 智之 ⑩46.33	中西 弘和 ⑧44.32
19	～富来	12.8km	大久保初男 ①39.31	竹林 昌広 ⑤40.50	田中 登 ②40.32	保谷 藤樹 ④40.45	田中 盟三 ③40.41	平山 猛 ⑨43.54	山口 潔 ⑥42.30	尾崎 官一 ⑦43.07	斉藤 英美 ①46.41	小林 寿朗 ⑧43.09	田中 良和 ⑩47.57
20	～直海	15.1km	鞭馬 講二 ①45.13	和田 誠一 ④46.59	勾坂 清貴 ④47.14	山本 吉光 ⑤47.21	長友 清美 ②46.56	森 久志 ⑧50.21	井上 正氏 ⑦50.08	高橋 守 ⑥49.46	黒木 潤 ⑨50.50	黒田 清隆 ⑩53.01	佐藤 五郎 ⑩58.16
21	～志賀	8.6km	鎌田 茂 ③26.34	関口 孝久 ②26.06	朝倉 忠勝 ①25.48	丸橋 久良 ④26.57	角 三喜男 ⑤27.16	大城 一利 ⑦27.41	堀士 章 ⑧28.06	鉄 和洋 ⑨28.13	福田 恵 ⑩28.31	藤原 安晃 ⑥27.22	遠藤 正彦 ①29.21
22	～羽昨	14.1km	金田 五郎 ②43.15	北中 純一 ④44.01	小倉 庸夫 ①43.11	岩瀬 哲治 ④44.01	田村 卓美 ⑥45.18	森崎 敏隆 ⑧46.48	今北 友幸 ⑦46.00	及川 雅彦 ⑤45.00	江口 修 ⑨47.00	石倉 豊浩 ①50.59	工藤 寛 ⑩48.03
23	～高松	15.6km	秋枝 実男 ①48.11	塩塚 秀夫 ⑧50.52	池田 久夫 ②48.58	山岡 秀樹 ④49.57	毛利 泰文 ⑤50.05	藤田 洋介 ⑦50.47	西田 義則 ⑥50.46	岩谷 雅彦 ⑨51.44	森下 誠 ⑩52.10	石岡 聖悟 ⑩55.42	田村 利光 ③49.47
24	～津幡	12.8km	下村 剛 ①37.47	関 英雄 ②38.43	新原 保徳 ③39.14	矢島 修 ④39.31	星島 隆昌 ⑤39.53	木村 俊 ⑦40.49	村松丈太郎 ⑧41.30	成沢 正宏 ⑥40.37	佐藤日出夫 ⑩44.23	大谷 利春 ⑩47.03	大原 和起 ⑨43.09
25	～森本	7.4km	森下 静夫 ④22.55	石井 隆士 ①21.53	重成 敏史 ②22.32	村田 訓男 ⑤23.08	小西 正富 ③22.39	高藤敬一郎 ⑦23.24	伊藤 達郎 ⑥23.18	安達 正司 ⑧23.48	新田 秀樹 ⑨23.56	高石 敏彦 ⑩26.55	明官 秀隆 ①25.31
26	～金沢	10.5km	菊池 一成 ①32.43	高橋 勝好 ③33.07	大谷 久夫 ⑤33.45	小菅 勝己 ②33.03	浜口 昇 ④33.29	石橋 剛 ⑦35.19	藤倉 勇 ⑩38.27	鈴木 長敏 ⑧35.27	内藤 立夫 ⑨36.10	亀谷 宏治 ⑥34.25	出塚 守 ①37.24
第三日		129.2km	①6.44.04	③6.50.22	②6.49.21	④6.50.40	⑤6.57.28	⑥7.09.03	⑧7.15.56	⑦7.13.46	⑨7.29.10	①7.40.34	⑩7.39.02
通算		341.6km	①17.36.13	②17.43.01	③17.50.26	④17.50.36	⑤18.06.12	⑧18.41.49	⑦18.58.46	⑥18.59.37	⑨19.34.55	⑩19.35.09	①20.00.34

第3日目の大会の様様を読売新聞11月25日朝刊¹⁴⁾は次のように報じている。

「大東文化大は、輪島市役所をスタート後、16区の塩野、17区の竹内と連続で大阪体育大、東京農大にトップに譲った。続く18区でも、松本が日体大・荒野の追撃を許し、やや苦しい出だし。しかし、『今日は3日間通じてのベストメンバー。』

『一気に差を広げる』(青葉同大監督)と、同大が自信を持ってのエントリーだけに、19区のエース大久保から徐々に地力を発揮。大久保は中継後、真正面から吹き付ける強風をものともせず、スパート。1km地点では、日体大・竹林を抜いて2位に上がり、中間地点では1位の東京農大に200mと激しい追い上げを見せ、20区の鞭馬に引き継いだ。鞭馬は中間地点手前で東京農大・山本を捕らえ、起伏の多い山道を快調に飛ばして区間新記録を樹立。50mリードして志賀町直海の中継点へ入った。この結果、大東文化大は大久保、鞭馬の好走で日体大に3分31秒の差を付け、首位固めの体制に入った。その後も、区間を重ねるごとに焦る日体大との差は開くばかり。日体大は20, 21区のと、関口が頑張りを見せたが、

23区で塩塚が区間8位に落ちるという、思いがけないブレーキを起こすなど、苦戦。終盤の関(24区)、石井(25区、区間新)、高橋(最終区)の力走も実らず、『3日間通じて大東文化大・大久保、東京農大・服部など他校のエース級に大差をつけられたのが痛く、エースを持たない弱味が敗因』(岡野同大監督)という結果に終わった。今大会初出場でコースに不案内というハンデを背負った順天堂大は、最終日だけのタイムでは大東文化大に次ぐ2位になり、通算でも3位と大健闘。上位の順位争いを面白くした。このほか東京農大は最終日も服部が活躍。通算4位の原動力になり、下位では、最終日の16区で高岡が区間1位を奪った大阪体育大の奮起が目立った。」

このように、第7回大会は、大久保初男選手の活躍もあり、大東文化大が初優勝を果たした。

能登駅伝の閉会式は、レース終了後の24日午後4時から金沢市出羽町の金沢女子短大講堂で行われ、優勝旗が稲置繁男北信越学生陸上競技連盟会長から大東文化大の竹内譲二主将に手渡された。続いて1日目から3日目ま

での優勝チーム、区間優勝者、監督に賞が贈られた。坂井敏夫審判長の講評、林勝次富山大学長、渡辺金行日本学生陸上競技連合会幹事長の祝辞の後、木村一義読売新聞北陸支社長が「来年もまた選手の皆さんと再会しましょう」と述べ、大会を締めくくった。⁽¹⁴⁾

坂井敏夫審判長は第7回大会を次のように講評している。

「大東文化大、日体大、順天堂大、東京農大の関東勢4校が白熱の首位争いを演じてくれ、トップがくるくる変わる好レース。記録的には強風の影響で記録が伸びなかったなどマイナス面があったが、通算で大東文化大の記録が昨年の大会記録を1分23秒上回るなど、全体に立派なものだった。上位が好レースを展開するとともに、下位の東北、中・四国、北海道、北信越の各学連チームと大阪体育大、大阪商業大、京都産業大などの競り合いも見ごたえがあった。欲を言えば、上、下位の間の“中間レベル陣”が中京大だけというのが寂しく、残念だった。



写真7. 読売新聞、昭和49年11月25日

鍛え抜かれたランナーがひたむきに走る姿に対し、昨年以上に、多くの地元の人たちが温かい声援を送ってくれたことなど、すべての面で収穫の多い大会だった。」⁽¹⁴⁾

注及び引用参考文献

- (1) 大久保英哲・親谷均二「日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会の開催・廃止過程—第1回開催（1968）から第10回大会（1977）に至るまで—」金沢星稜大学人間科学研究第9巻1号、2015
- (2) 大久保英哲・親谷均二・北川潔「日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会の開催・廃止過程—第1回（1968）から第10回大会（1970）—」金沢星稜大学人間科学研究第9巻2号2016
- (3) 大久保英哲・親谷均二・北川潔「日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会の開催・廃止過程—第4回開催（1971）—」金沢星稜大学人間科学研究第10巻1号、2016
- (4) 第5回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会、プログラム（表紙及びコース図）、1972
- (5) 第10回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会、プログラムp.42 1th～9th 過去の歩み 第5回、1977
- (6) 第6回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会、プログラム（表紙及びコース図）、1973
- (7) 第10回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会、プログラムp.43 1th～9th 過去の歩み 第6回、1977
- (8) 第7回全日本大学選抜能登半島一周駅伝競走選手権大会、プログラム（表紙及びコース図）、1974
- (9) 読売新聞、昭和49年11月16日朝刊
- (10) 読売新聞、昭和49年11月18日朝刊
- (11) 読売新聞、昭和49年11月22日朝刊

(12) 読売新聞、昭和49年11月23日朝刊

(13) 読売新聞、昭和49年11月24日朝刊

(14) 読売新聞、昭和49年11月25日朝刊

付記

本論文は、平成28年度金沢星稜大学共同研究費（研究代表者大久保英哲）の助成を受けている。大久保英哲が全体の構成や表現を含めた論文作成を統括し、親谷均二と北川潔が、これまでの所蔵資料の中から当時の記録を表に作成した。その際、大久保が指導した鈴木仁子（2009）「全日本学生選抜能登半島一周駅伝競走大会について—第1回開催（1968）から中止（第10回大会・1977）に至るまでの経緯—」、平成21年度金沢大学教育学部卒業論文を基本資料として参考にしている。また11月19～21日の3日間、共同研究者（大久保・親谷・櫻井・佐々木・西村・阿羅）は、親谷の案内で、第10回大会のコース沿いに現地をトレースし、出発地点、中継点、ゴール地点を確認するとともに、沿道沿いの住民に当時の駅伝がどのように記憶されているかの調査を行った。1977年を最後に大会が廃止されて、既に40年。その記憶は確実に薄らぎつつある。本稿にその成果は直接反映されていないが、能登駅伝の全貌を明らかにするうえで、貴重な資料・証言を得た。おいおいそれらの成果をまとめていきたい。関係者諸氏のご指摘、ご叱正、また関係資料のご提供をお願いしたい。

